

私の思い出

忘れられない出来事

森上 松倉 伸子



私は、昭和一桁生まれで白馬に生まれ、白馬（当時は北城村）の住民として七十数年生きてきました。小学校6年の時に終戦となり、8月15日は忘れる事のできない日です。64年も過ぎた今でも、はっきり覚えていることがあります。

8月16日の朝の事でした。兵隊さんが何十人も乗ったトラックが、我が家の庭に止まり、幹部の人らしい方と父は話をしました。その中の5人は我が家に泊まることになり、残りの大勢の兵隊さんは、父の知り合いの家に2、3軒に分散して一晩過ごしました。その夜父は、「この人達は戦争に負けたので、自分の家には帰れないから、私の家族として今夜から一緒に暮らすことになった。明日から仕事（私の家は精米業でした）や掃除、何でも手伝うぞうだ」と云っていました。私の当番の庭掃除も明日からしなくても良いのかと内心喜びました。戦争が終わり、兵隊さんは全員実家に帰ると聞いていたのに、家に泊まった兵隊さんは、どうして実家に帰らないのか不思議に思いました。後で聞いたことですが、「死ぬ覚悟で家を出て来た、戦死した同期の人達に申し訳ない。この山の中で集団自殺をすると決めて来た」とのことでした。

次の日の朝、憲兵隊が我が家を取り巻

き、鉄砲を向けていました。家に居る兵隊さんを追いかけてきたのです。5人と父に鉄砲を向けていました。私はただ見ているだけで何も出来ませんでした。6年生の時でした。父と幹部の人と話ができて、丁度朝飯の時間だったので、「何か食べるものを用意して欲しい」と云われたのですが、お釜は一個だけだったので、大勢の人が食べるご飯はないので、小さなおにぎりに塩を振って我慢して頂きました。父に鉄砲を向けて、今にも殺そうとしていた憲兵さんも帰る時は、「おじさん、俺も日本人だ。この連中の気持ちもよく解る」と云って、涙を流したとの事でした。

それから2年程経って、幹部の兵隊さんが尋ねて来ました。玄関で抱き合って泣いていました。「住所も名前も聞かずに別れて行き、本当に辛かった。手紙も出せない、電話も無い、本当に苦しかった」と云っていました。神戸に住んでいたようです。また、若い兵隊さんは、石川県の七尾にいました。ことが分かり、私が旅行した時に話が出来ました。図書館長さんでした。このような出来事を子どもや孫に話しても、多分おばあさんの創作と云われそうです。私は、8月15日になると何時もお墓で両親とあの忘れられない日の事を話しています。

おらが里づくり

白馬町活性化推進委員長 新沢 恵



白馬町木流し地藏尊六体地藏

側に白馬町の結界の守護神として、また、白馬村を訪れた人々の心の癒しとなればと願い、木流し地藏尊六体地藏を建立しました。

このお地藏さんをお参りする時は、先ずお賽銭を入れ「オン カカ カビサン マエイ ソワカ」(類いまれな尊いお地藏さまという意味)という真言を、両手を合

我白馬町区では、平成12年に区の活性化のため、区民の自主性の尊重を計り、計画を立案し推進することを目的に白馬町活性化推進委員会を立ち上げ、村の地域づくり事業補助金を活用し事業を推進してきました。平成12年から4年間JAハピア北側の村道沿いに山野草を植え、平成19年に駅前足湯の設置と国道沿いにブルーヘアプランターを毎年少しずつ設置しています。また、平成17年から、白馬駅前より八方口六拾刈の信号機までの県道白馬岳線沿いにイルミネーションを、沿道の方々のご協力を頂き12月上旬から4月中旬まで点灯しています。今年は、5月に白馬駅前

わせて繰り返し、繰り返し唱えてください。「オン」は帰命・供養などを意味し、「カカ」は呵々大笑の呵呵で笑い声を表しており、微笑みを絶やさない地藏さまのことです。「カビサンマエイ」とは希有の意味で、お地藏さまへの讃歎の気持ちを表し、「ソワカ」は、神聖なことの最後につけて、その言葉の完成成就を願う気持ちを表しています。その心を意識して「おんにこにこはらたてまいぞやそわか」と教わったものです。現在、六体地藏の愛称を一体ごとに募集しています。応募される方は8月末までに白馬駅前、ヘアースロンアラサワまでお願いします。